

■調査レポート

本公社アンケートによる県内経済動向

【調査の概要】
 平成20年4月時点調査（郵送法）
 調査対象 県内1,000社
 回答企業397社（回答率39.7%）

～ 先行き悪化懸念 ～

【全産業主要D I 値】

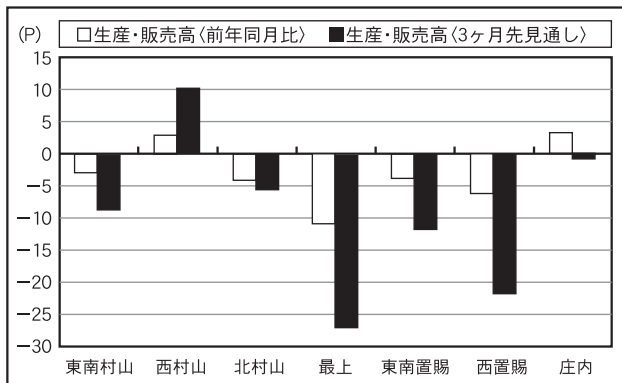
生産・販売高について、前年同月より「増加」とした企業の割合から「減少」とした割合を差し引いた業況判断指数(D I)は▲34.4となり、平成20年1月実施した前回調査比較で2.0ポイントマイナス、営業利益は▲49.1で1.3ポイントプラス、資金繰りは▲27.6で1.6ポイントプラス、事業業況では▲44.0で4.6ポイントプラスとほぼ横ばいとなっている。

同様に「3ヶ月先見通しD I 値」では、生産・販売高が▲18.3で8.0ポイントマイナス、営業利益が▲48.1で10.7ポイントマイナス、資金繰りが▲35.5で4.2ポイントマイナスと先行きに対する厳しい見方が伺える。

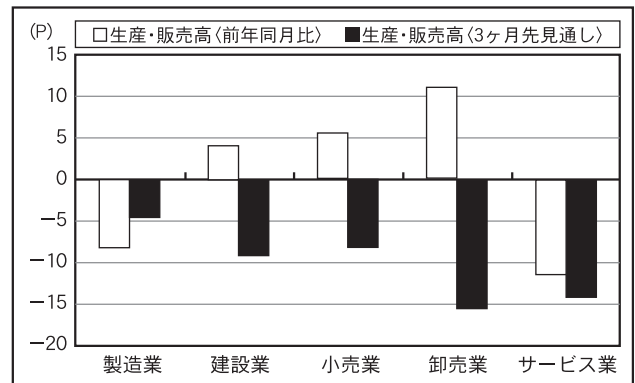
全産業の主要項目（前回調査と今回調査D I 値の差異） (表1)

項目	生産・販売高	営業利益	資金繰り	事業業況
前年同月比	▲ 2.0	1.3	1.6	4.6
3ヶ月先見通し	▲ 8.0	▲ 10.7	▲ 4.2	1.6

地域別の動き（生産・販売） (図1)



業種別の動き（生産・販売） (図2)



【地域別に比較した特長】

前年同月比の今回調査D I 値は、各地域ともマイナス（東南村山▲36.3、西村山▲20.6、北村山▲33.3、最上▲52.0、東南置賜▲36.5、西置賜▲15.7、庄内▲34.4）となっており、前回調査とのD I 値差異（図1）でも、5地域（東南・北村山、最上、東南・西置賜）でマイナスポイントとなっている。西村山と庄内がプラスポイントとなっているものの、今回調査D I 値水準は依然厳しい状況で推移している。

また、3ヶ月先見通しの今回調査D I 値では、6地域でマイナス（東南村山▲20.0、西村山▲21.9、最上▲27.0、東南置賜▲30.8、西置賜▲26.3、庄内▲10.2）となっており、プラスとなった北村山（+7.4）でも前回調査値（+13.0）と比較すると下降傾向にある。前回調査との差異（図1）でも、6地域でマイナスポイントとなっており、全体的に先行きへの不安感が高まっている。特に最上（-27.0）や西置賜（-21.5）の下降傾向が大きい。西村山のみプラスポイントとなっており持ち直し感はあるが、今回調査D I 値水準からみると未だ先行きへの慎重な見方が多い傾向にある。

【業種別に比較した特長】

前年同月比の今回調査D I 値は、製造業▲24.0、建設業▲63.8、小売業▲35.4、卸売業▲36.1、サービス業▲42.6と各業種ともマイナスの状況で、前回調査とのD I 値差異（図2）では製造業・サービス業でマイナスポイントとなっている。建設業・小売業・卸売業はプラスポイントとなっているが、依然回復基調に乏しい水準となっている。

また、3ヶ月先見通しの今回調査D I 値では、製造業▲1.6、建設業▲57.4、小売業▲31.7、卸売業▲19.5、サービス業▲25.9と各業種ともマイナスとなっており、前回調査D I 値との差異（図2）では、全業種でマイナスポイントと先行きへの不安感が高まっている。特に、前回調査D I 値で唯一プラス（+3.2）であった製造業がマイナス（-1.6）へと悪化したことが大きな変化と見られる。